

後期日程

平成 29 年度入学試験問題（後期日程）

小論文

教育学部
学校教育課程
幼小連携教育コース

— 解答上の注意事項 —

- 1 「解答始め」の合図があるまで問題を見てはならない。
- 2 問題冊子のほかに解答紙 1 枚と下書き用紙 1 枚がある。
- 3 解答は横書きとする。
- 4 解答紙を提出すること。
- 5 問題冊子と下書き用紙は持ち帰ること。

下記の資料は、小学校1年生の国語科の題材「おとうとねずみチロ」（『新編 あたらしいこくご一年下』東京書籍）を用いた授業内容について書かれたものです。

文章を読み、以下の2つの問いに合わせて800字以内で答えなさい。

問1 以下の文章(1)においては、動作化を中心とした指導法が行われています。

この指導法を取り入れた授業の意図を説明しなさい。

問2 この通常学級には、LD(学習障がい)の児童もいます。以下の(2)の文章も参考にし、通常学級の授業の中で、特別な支援を必要とする児童がともに指導を受けることの意義について述べなさい。

(1)学習指導の概略

本時は、しましまのチョッキをおばあちゃんから贈られたチロが、おかのてっぺんへかけのぼり、お礼を言う場面を学習した。

子どもたちは、欲しかったチョッキが手に入った嬉しい気持ちを、おばあちゃんに大きな声で伝えていると、この場面の様子をとらえている。嬉しいのはもちろんなのだが、そこには、欲しくてたまらなかったしましまのチョッキが贈られたこと、幼い自分のことを忘れてはいなかったことに対する、おばあちゃんへの感謝の気持ちが込められている。嬉しさに感謝の混じったチロの気持ちを伝えている場面として、この場面の様子をとらえさせたいと思った。

そこで、チョッキを見て喜ぶチロ、「チョッキ、ありがとう。」と叫ぶチロ、「あ、り、が、と、う。」と言うチロを動作化し、比べることで、それぞれの場面のチロの様子、気持ちの違いをとらえさそうとした。

まず、教師がこの三つのチロを連続して動作化した。三つのチロを、敢えて変化をつけずに、大喜びして大声で叫ぶチロとして動作化して見せた。すると、子どもたちの中から「嬉しそうだけれど、『ありがとう』の気持ちが伝わってこない。」「自分だったらおばあちゃんの住んでいる家の方を向いて声を届けようとするよ。」「『あ、り、が、と、う。』はもっと優しく心を込めておばあちゃんに伝えたんじゃないかな。」などという意見が出た。

次に、子どもたちに教師の動作を修正するという活動を行わせた。そして、どうしてそんなふうに動作を修正したのかを語らせた。ある子は自分が欲しくてたまらなかった物ももらったときにどれだけ嬉しかったのかを語り、ある子は、自分にも離れて暮らすおじいちゃんとおばあちゃんがいることを語った。また、自分が友達に「ありがとう。」を伝えたときのことを思い出してその理由を語る子もいた。

最後に、「あ、り、が、と、う。」に続くチロの言葉を想像して吹き出しに書

き、チロになったつもりで動作化しながらその言葉を音読させた。そこには、おばあちゃんへ自分の感謝の気持ちが届くといいなあと心から願うチロの気持ちが、その子なりの言葉でつけ加わっていた。

子どもたちは、教師の動作化を見たり、その動作を自分で修正したり、さらに自分で想像したチロの会話を動作化することを通して、場面の様子を自分の経験とつないで、想像を広げながらとらえようとしたのである(中略)。

(2) 特別な支援を必要とする子どもへの支援

A児は書かれている文章を正しく音読すること、正しく表記することが苦手である。本單元においても「おばあちゃん」を「おばちゃん」と音読したり、「チロだよ。」の「う」が音読できずに、「チロだよ。」となったりしてしまう。特に拗音、促音の音読や表記が苦手である。そのため、動作化しながら登場人物の会話を音読しようとしても、音読でつまってしまうため、スムーズに動作化につながらない。

そこでA児には、まず、本時までの学習において、音読の際の支援を重点的に行った。教科書の拗音、促音が含まれている単語は全員で何度も声に出して読む練習をしてから一文読みを行った。また、読んでいるところを常に指で追う習慣をつけさせ、指で追えていないときには、教師がA児の教科書を指で追ってやる支援を行った。また、特に音読につまずきそうな単語は○で囲み、宿題で毎日行っている音読練習で、その言葉に気をつけながら練習するよう声をかけた(中略)。

本時の学習では、動作化する際に音読するチロの会話文だけをカードにして板書に示した。動作化に必要な言葉のみに目がいくようにしたのである。また、ペアで動作化を見せ合う活動の際には、チロの会話文のカードが目に入りやすいように、黒板をおばあちゃんの住む家の方向と想定して動作化させた。

本時までの音読の練習と、本時の支援により、チロになったつもりで生き生きと「あ、り、が、と、う。」と言うA児の姿が見られた。

出典：佐藤明宏編著『特別支援の子どもの言語力をどう育成するか—スクリーニングテスト出題の実例とバイパス教材による指導のヒント—』明治図書、2012年、45～47頁。